「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会
〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知県保険医会館内
TEL；(052)832-1349
FAX；(052)834-3584

保険で良い歯科

全国連絡会だより

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会
副会長 江原 雅博

2月19日（木）に今年始めての「保険で良い歯科医療を」全国連絡会世話人会議が開かれました。

全国連絡会は、保険医協会、民医連、生協医療部会や、東京都・千葉県・愛知県・長野県の各県組織などで構成され、現在2か月に一度世話人会議を開催しております。今回は、県連絡会結成後はじめての参加になる愛知県の大藪・長野県の鈴木両代表の先生を交えての討議になりました。

情勢と運動のポイント

歯科医療をめぐっての情勢討議では、海外技工の問題が討議されました。保険医協会・保団連の調査が紹介され、社会保障としての歯科医療や歯科技工物をどう考えるのか論議され、現状を多くの国民に知ってもらうことが大切であることが確認されました。

国会請願署名については、前回署名を引き継ぎつつ、具体的に成果を勝ち取るものを明確にする内容で4月世話人会議に確定することになりました。

今年の運動のポイントとして10月8日の「入れ歯デー」は、過去1992年の活動を上回る取組みにし、入れ歯を中心に歯科医療をアピール、マスコミへの宣伝の場としても位置づける、電話・面談での相談、懇談会、講習会、歯の供養祭など各団体協力して行うことが提案されました。（愛知でも創意工夫して頑張りましょう。）

その他、総選挙に向け各政党に歯科医療の政策アンケートを実施、昨年秋行った患者アンケートのパンフレット発行準備、9月14日に大分で行われる高齢者大会の歯科分科会開催、自治体意見書採択・国会要請行動の取り組み強化など盛りだくさんに討議されました。

国民・患者目線で運動を

昨年10月から、構成団体である民医連より前任者を引き継ぎ副会長として出ています。責任の重さは常に身にしみていますが、この運動を歯科医療従事者だけの運動にしないよう、国民・患者目線で貫こうと決意しています。

自治体意見書採択の運動の状況

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会では，各自治体に国への意見書を出すよう求める運動をすすめています．

2008年11月現在，24都道府県で4県議会，313市町村議会で採択されています．

全国連絡会では2009年末までに，全国の過半数の自治体で採択されるよう運動を強めるよう呼びかけています．

愛知県の状況は，下記の通り**7市7町**で採択されています．

西尾市，北名古屋市，清須市，知立市，大府市，　愛西市，蟹江町，阿久比町，豊山町，春日町，　大口町，扶桑町，音羽町，新城市（趣旨採択）

ご意見募集中

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会では，今年度に取り組む請願署名案を検討しています．下記請願項目に対するご意見をお寄せください．

だれもが、いつでも、どこでも、お金の心配のいらない

「保険でよい歯科医療」の実現を求める請願署名

衆議院議長殿・参議院議長殿　　案　　年　月　日

請願趣旨

深刻さを増す不況の中、多くの患者・国民は医療における患者負担の軽減と歯科の保険給付範囲の拡大を切望しています。

窓口負担の増加により、むし歯や歯周病など治療したくても受診を控えたり、入れ歯が合わなくなっても新しく入れ歯を作ることをあきらめたりする患者が増えています。

政府の医療費抑制政策の結果、必要な医療まで制限され歯科医療費は減少しつづけ、保険給付も改悪されたため、より良く噛める入れ歯を保険で作ることなど良い歯科医療の提供も難しくされてきました。

このため、入れ歯を作る歯科技工士の離職やブラッシングの指導をする歯科衛生士の雇用不安も拡大するなど歯科医療は崩壊寸前です。

深刻な不況の今こそ、だれでも、いつでも、どこでも、お金の心配のいらない「保険で良い歯科医療」の実現は、患者・国民、歯科医療従事者の共通の願いです。

そのため、国の医療予算を増やして、2010年の診療報酬改定で以下の事項の実現をしてください。

請願事項

1、現在3割の窓口負担を軽減してください。
2、小児は永久歯が生えそろう義務教育終了まで、歯科の窓口負担を無料にしてください。
3、より良く噛める「入れ歯」ができるよう診療報酬を改善してください。
4、歯周病の治療・管理が十分できるよう診療報酬を改善してください。
5、入れ歯（金属床義歯）や自然の歯に近い色調を持つ歯（冠）など、日常の治療で普及している保険外の治療は保険でできるようにしてください。

（上記、5、の項目の記述を更に工夫するよう検討中）

5名連記

氏　名　　住　所

参加団体紹介

第3回 アレルギー支援ネットワーク

写真は事務局長の
中西里映子氏

ーアレルギー支援ネットワークとはどのような団体ですか？

ＮＰＯ法人で2006年9月に愛知県より認証を受けました。
会の活動の目的は「アレルギーなどの問題解決とその患者支援活動を行い、国民の健康と快適な生活に寄与する」ことです。その為、自らアレルギーなどの疾患を持ちつつ、相互に助け合いながら、アレルギーで困っている人々と医療関係機関や自治体・企業などさまざまな人々とのネットワークを結ぶアレルギー分野の「中間支援組織」としての役割を担うものです。

役員は理事長に須藤千春（中部大教授）、副理事長は小川雄二（名古屋短期大学教授）、伊藤浩明（あいち小児保健医療総合センターアレルギー科）はじめ他に12人です。正会員（ＮＰＯの運営に責任を持つ会員）は2団体23人で他に一般会員はじめ無料会員など約350人です。活動地域は主に東海四県下となっています。

ー日常的にはどのような活動をしていますか？

アレルギーを持つ人々への支援（個人相談・年間400件以上、情報通信メルマガの毎月1回発行、ホームページのｈｉｔ数は毎日開設・運営、講演会の開催など）や市町にアレルギーを持つ人々が交流できる会（患者・家族会など）の設立や運営などの支援を行っています。

また、アレルギーに関わる専門職の方々への支援では「アレルギー大学」（講座・実習研修）を開催しています。昨年度のアレルギー大学は静岡、三重、愛知で40講座・実習を開講し、受講生のべ1300人を超えました。

今年の第Ⅳ期アレルギー大学には新たに「咀嚼と子どもの歯の健康」という新たな講座が加わり、講師として保険医協会の歯科医の先生を派遣していただくことになり、スタッフ一同大いに励まされています。

その他、災害時にはアレルギーの人々の救援活動をはじめ日ごろの防災活動を災害ボランティア団体の方々にご協力をいただきながらすすめています。

くらし、子育て、平和など女性の願いを実現するために活動しています。2003年春には、国連ＮＧＯとして正式認証され、世界の女性と連帯し活動をひろげています。

ー連絡会に参加して歯の健康に対する意識は変わりましたか？

金属アレルギーで歯の治療が大変なことは体験していましたが、普通に歯の治療をおこなおうとしても意外に保険がきかないことを知り、驚いています。

また、歯科技工士を育成する学校が少なくなっていることにも医療制度が国民の願いとは逆行していることを感じています。小児科の医師などが少なくなっていることなど医療制度の貧困な日本の将来はどうなっていくのかと案じられます

ー連絡会に望むことはありますか？

多くの人が歯科医療の実情をもっと分かるよう広くさまざまな団体に呼びかけるといいですね。私たちもできる限りアレルギーの会にこの活動を通じて実情を知らせていきたいと思います。

ー歯科医療に望むことはありますか？

医師の世界は国民の目から見ると恵まれた環境に映りがちです。過酷な環境の実情をリアルに語っていただきたいのと併せて、国民が安心して医療が受けられるにはどうしたらよいか率直に私たちにも語りかけていただけるといいですね。

ーその他どのようなことでもどうぞ

アレルギーは言葉こそありふれるようになってきていますが、アレルギーで困っている人々の悩みや直面している食品表示をはじめ保育園や学校などでの課題は１０年、２０年前と殆ど変わらず、依然として混沌としています。その間、アレルギーの治療などが飛躍的にすすんだことと比べると矛盾はより大きく深刻です。金属アレルギーをはじめ歯科材料の問題は原因や治療法が明確になってきているだけに「普通に」治療できないという現状もその一端です。治療を必要とする人々が普通に治療が受けられる社会になってほしいものです。

署名活動 | 要求運動 | 街頭宣伝 | **定期総会** | 自治体請願 | 健康講座 | 世話人会

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会
第3回総会のご案内

5月31日(日) 午前10時～12時
愛知県保険医協会伏見会議室にて

記念講演

「口の中からみえる健康格差(仮)」

講師：健生会相互歯科（東京都立川市）歯科医師または歯科衛生士

経済格差や家庭環境，非正規雇用などの不安定な生活基盤がもたらす歯の健康への影響とその解決方法などについてお話しいただく予定です．